

2026 年 1 月

各地区ワークショップについて

新設 C チーム企画
濱崎 はるか

各地区のワークショップの市民の参画および意見照会が、その後、各地区の基本構想に掲載(反映)されることから、基本的な事項として求めることを共有します。

多様な SOGIESC を前提とする、誰もが暮らしやすいまちづくりの広がりを期待します。

1. ルート選定に対して求めること

まちあるきルートの中で 1 以上のトイレを調査対象として含めることを求めます。多様な当事者参画によるまちあるきでは、外出において不可欠な公共のトイレの見学が必要です。

2. チェックシートに対して求めること

評価項目(確認内容)について過去のワークショップの取り組みを継承してください。

過去の取り組み 1 トイレの確認ポイントについて

2024 年 7 月 3 日配布の「梅田地区課題箇所(トイレ)」より抜粋。

多くのトイレが、多様な SOGIESC を前提としておらず、依然として男か女かの二元論を前提としていることによって、LGBTQ+をはじめとする多様な SOGIESC の人にとって使いにくいものになっている。

過去の取り組み 2 確認内容について

2024 年 7 月 12 日配布の「第 2 回ワークショップ(現地確認)の実施計画」より抜粋。

利用のしやすさ(LGBTQ+の視点、手すり、扉の位置)

今後、チェックシート上の記載のあり方
提案

- ・オールジェンダートイレがあるか
- ・バリアフリートイレが、性別に関わらず誰もが利用できる配置であるか
- ・ジェンダーステレオタイプを助長しないピクトグラムであるか
- ・小便器利用のプライバシーが確保されているか